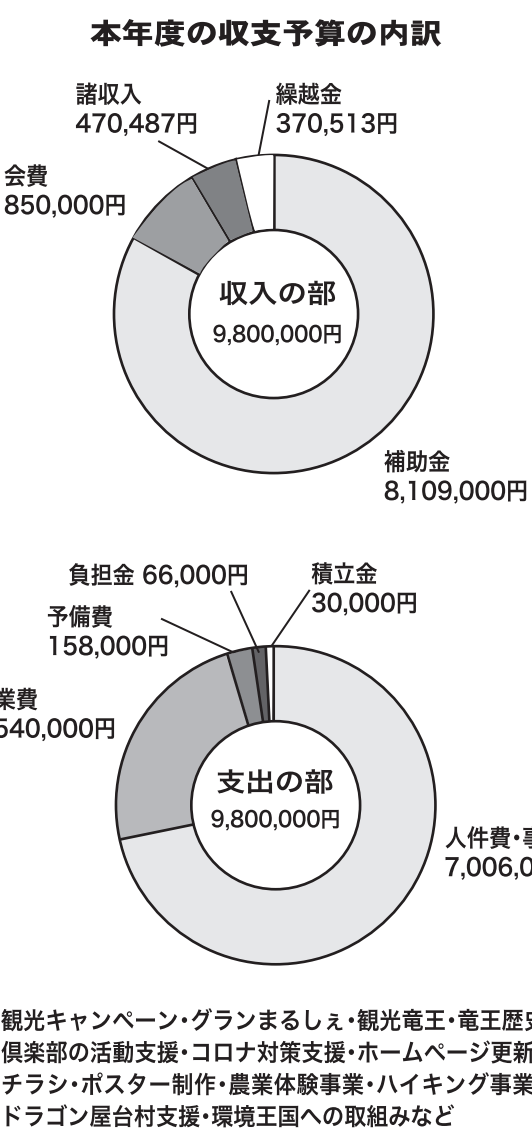


竜王町観光協会役職員

(敬称略)		
会 長	若井 富嗣	礼子
副会長	畠地 正作	正治
副会長(会計)	清水 林	眞一
顧問	竹井 谷	匡希
理事	中村 吉田	希美
理事	仲上 隆司	
理事	前田 順治	
理事	澤 加代子	
理事	小野 定章	
理事	井口 敏夫	
理事	岡山 富男	
理事	北川 勝士	
理事	森嶋 政文	
理事	岡山 健喜	
理事	川部 定剛	
理事	古株 明子	
理事	辻澤 孝行	
理事	若井 康徳	
理事	山田 菊重	
理事	森口 征太郎	
理事	山中 ふじ	
幹 事	那須 寛士	
幹 事	井口 清幸	
幹 事	岩田 宏之	
幹 事	大継 拓未	
事務局員	堀江 豊造	
事務局員	西居 利恵	



- 【広報部会】**
- ① 観光キャンペーンの実施
 - ② 広報誌「観光竜王」の発行
 - ③ 観光ポスター・チラシの発行
 - ④ アウトレットにおけるイベント活動（竜王まるしえ・グランまるしえ開催他）
 - ⑤ 竜王町観光大使「近江うし丸」観光PR活動
 - ⑥ ホームページを活用したコロナ対策支援

本年度の主な事業計画

- 【事業推進部会】**
- ① 竜王歴史倶楽部（旧竜王町観光ウェルカムガイド）の活動支援
 - ② 竜王町ドラゴン屋台村の活動支援
 - ③ 観光協賛事業の開催
 - ④ 観光振興の強化
 - ⑤ 広域観光の強化
 - ⑥ ホームページを活用したコロナ対策支援
- 【事業活動部会】**
- ① ハイキング事業の実施
 - ② 農業体験事業の実施
 - ③ 鏡の里元服式の実施
 - ④ 環境王国への取組み

竜王歴史倶楽部
(竜王ウェルカムガイド)
にしむら あきお
西村 明夫氏 (橋本)



観光ボランティアガイドの役割

近頃、団塊の世代が神社・仏閣を散策している姿を見かけます。あまり有名でもない田舎の神社を訪ね、そこで行われる宗旨や行いを見学するなどアクティブに活動しております。また、最近若い女性が増え、歴史探索のため、神社・仏閣を訪れる姿が目立つようになり、私共「歴史女」と呼ばれる彼女たちは、戦国武将を用いたゲームから歴史上の人物に興味を持った世代だということです。

一方、私たち観光ボランティアガイドの役割は、案内する地域の歴史を語るだけでなく、その地域の文化、景色、人々の暮らしを紹介することだと考えております。観光とは「その国の光を観る」ということなのです。国の光とは神社・仏閣等の建築物、山や川、田園等の自然景観、その土地の文化、習慣、生活する人々のことを言い、これを観察することが観光の語源です。私たちの活動は、案内する地域資源である神社・仏閣や自然景観、習慣等を理解していただくことであり、歴史を語ることはその手段に過ぎないということです。

他方、歴史は過去に起こった戦争や革命、政治及び事件、事故は厳然たる事実であり、その背景は正確ではなく、歴史学者が事実の積み重ねから類推したものと解釈されます。今、話題の大河ドラマによく出てく

る本能寺の変が天正一〇年六月二日（二五八二年六月二日）早朝、京都の明光寺に滞在していた織田信長を家臣の明智光秀が謀反を起こして襲撃した事件です。その背景には諸説あり、なぜ謀反を起こしたのかについては、明智光秀に聞かなければ本当のところは分らないと思います。

私たちが観光ボランティアガイドとして気を付けることは、本町を訪れる人たちに対して観光案内スポットをただ歴史的な視点で説明するだけでなく、史実を基本にその事象における背景をガイド自身の視点から物語風に構築していくことが、必要なテクニクだと思えます。そして本町各地に点在する観光スポットをカテゴリー別に分類して説明すると更に物語の幅が広がり、来訪者に強い印象を与え、来訪リピーターが増加すると思います。

例えば、朝鮮半島(高句麗、百濟、新羅)からの渡来人の話から滋賀県の関わりを説明し、本町の関わりに話を発展させ、鏡神社、苗村神社を紹介する手法です。更に、中大兄皇子、大海人皇子から万葉ロマン蒲生野を物語風に説明し、雪野山、妹背の里、龍王寺を案内することにより、説明が点から線になり、興味を持って聞いて頂くことができます。

琵琶湖を有する滋賀県は、歴史上有名な武将たちの覇権争いの中心地として、幾多の人が訪れ戦いに明け暮れた所で、多くの観光スポットがあり、本町も同様に多くの武将たちが訪ねた記述があります。隠れた観光スポットをつなぎ合わせれば壮大な物語が構築できるのではないかと想像を膨らませております。

私たちボランティアガイドが「歴史と文化の町・竜王町」の観光振興に役立てようよう邁進していきたいと思っております。

令和元年十二月
滋賀県指定史跡に指定

オウゴ古墳（薬師）
地域首長の墳墓

竜王町薬師に所在する「オウゴ古墳」は、令和元年十二月に新たに『滋賀県指定史跡』に指定された古墳時代後期の古墳です。

古墳は、一辺約二〇mの方墳とされ、その側面に県内三番目の大きさを誇る巨石積み横穴式石室が口を開けています。薄暗い石室内部は、イザナギノミコトが地下の「黄泉国」を訪れる神話を彷彿とさせ、遺骸を納めた玄室は高さ三m余、見上げるような高さに驚かされます。

当地から谷筋を遡ると前方後円墳の岩屋古墳があり、やがて八重谷越えから野洲川方面へ抜けられることから、本古墳の被葬者は、交通路を抑えていた地域首長と考えられます。



滋賀県指定史跡に指定された
オウゴ古墳石室

令和二年三月
重要無形民俗文化財に指定

山之上
ケンケト祭り長刀振り

毎年五月三日、竜王町山之上では、鉦や太鼓の囃子とともに、華やかな衣装に着飾った少年たちによる勇壮な長刀振りが目に飛び込んできます。「ケンケト祭り」と称されるこの祭礼は、神の化身とされる「鷲」の鉦とともに地区を巡り、神社境内や御旅所へと練り込み、やがて各々が杉之本神社に集まり、神前で踊りが奉納されます。

令和二年三月、この祭礼は国の文化審議会で『重要無形民俗文化財』に指定されるとともに、国内各所に伝わる「風流（ふりゅう）踊り」の一つとして、「ユネスコ無形文化遺産」の国内候補となりました。二年後に郷土の祭礼は、日本の無形文化財としてユネスコ登録の見通しです。



鷲奉納

長刀振り

シリーズふるさと探訪 ⑦6

奈良街道は歌垣の道

蔵口 嘉寿男氏（川守）

前々回シリーズ⑦4で「近江から奈良街道を考える」を記しました。今回は、古代大和と近江を結ぶ奈良街道の重要な地点にあった雪野寺（龍王寺）に有名な歌人が訪れ、多くの和歌を残していることを紹介します。

▽柿本人麻呂（生没未詳）
「万葉集」の歌人で、持統、文武朝に仕えた宮廷歌人。一方で諸国を巡行して多くの和歌を詠んでいる。

「かね暗き野寺の杉の木の間より山時鳥 声ぞ落ち来る」

▽和泉式部（生没未詳）
平安中期の歌人。生涯千何百首の和歌を残し、勅撰集入集が四百四十七首という和歌史上出色の歌人として活躍した。

「暮れにきこ告ぐるぞまこと降り晴るる雪の野寺の入り相の鐘」

▽藤原定家（一一六二～一二四二）
平安末期、鎌倉前期に活躍した歌人。宮廷でも重要な地位を占めた人で、後堀河天皇の命により、「新勅撰集」の編集にあたった人。

「昨日観し花のあたりに夜は更けて野寺の鐘の声を聞こゆる」

万葉集が編纂される以前は、日本語自体が文字を持たない音声言語として発達した生きた言葉でした。やがて音声言語を保存するために文字に置き換えられて編まれたのが万葉集だと伝えられています。

万葉の歌は、読み書きが発達していない頃の娯楽「歌垣」と呼ばれる遊びがルーツであると考えられ、文字で伝えるという感覚ではなく、声を出して歌いあげる風であったと言われています。

万葉の有名な歌人たちが、奈良街道を旅して雪野寺（通称野寺）に至り、多くの歌を詠んだことから、地元では歌垣の道とも呼ばれていたことが言い伝えられています。